

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育方針のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 3 挨拶励行・時間を大切に・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。
- 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切に、夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 社会で通用する基礎学力の定着と、希望する進路実現のため自ら学び続ける意欲や態度を養う。
 - (1) 授業形態の工夫やICT機器の積極的な活用とともに、生徒の実態に応じた主体的・対話的な深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。
 - (2) 大学進学希望者の増加をふまえ、早い段階で意識づけができるようガイダンス機能を充実させるとともに、さまざまな受験方式に対応する学力の充実を図る。
令和4年度までに大学短大進学率35%を達成する。(H29:28.9% H30:25.6% R1:34.2%)
 - (3) 「観点別評価」への理解を深めて積極的に導入するとともに、日常の学習活動において、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
 - (4) 新学習指導要領に準拠したカリキュラムを完成させるとともに、シラバスの更新を進める。
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。
 - (1) 平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
 - (2) 他者理解や思いやりの心を持ち、自分を大切にすることを育むよう、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
 - (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
 - (4) 生徒会行事や学年行事、部活動を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるよう支援する。
 - (5) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。また、外部機関と連携し効果的な支援方法を確立する。
- 3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。
 - (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携などの機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
 - (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして将来の社会的自立を促す生徒指導を実践する。
 - (3) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、一人の死者も出さない万全の防災体制を再構築する。
 - (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
 - (5) 教員の人材育成とともに、業務の精選と効率化による適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】	第1回 (/ 開催) 第2回 (/ 開催) 第3回 (/ 開催)
【生徒指導等】	
【学校運営】	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 社会で通用する基礎学力の確立と自ら学び続ける意欲や態度</p>	<p>(1)基礎学力の定着を図るため。国数英3教科での少人数習熟度別授業を展開する。また、全ての授業において授業形態の工夫やICT機器の活用を進め、主体的・対話的で深い学びを実践する。</p> <p>(2)大学進学希望者の増加をふまえ、ガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。</p> <p>(3)「観点別評価」への理解を深め、授業に反映させる。</p> <p>(4) 新学習指導要領に準拠したカリキュラムを完成させるとともに、シラバスの更新を進める。</p>	<p>(1)習熟度別少人数授業 ア、1年数学：2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開 1年国語(国語総合)：1クラス2展開 イ、プロジェクターを全普通教室に配置し、全ての授業において学期に一回は活用する。同様に主体的対話的で深い学びの授業を学期に一回は実施する。</p> <p>(2) ア、教育産業の実力テストを実施 1, 2年生は年2回実施 3年生の希望者数を増やす イ、2・3年生を中心に進学講習等を学年主体で取り組み、継続的に受験に向かおうとする気概を醸成する。</p> <p>(3)教員全体での学習会の実施や教科会議等での議論において、観点別評価の定着を図る。 ア、元キャリアCoを校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ、各種検定へのチャレンジ生の増加をめざす。</p> <p>(4) ア、令和4年度からのカリキュラムを編成し、それに合わせたシラバスも完成させる。</p>	<p>(1) ア 少人数授業アンケート結果が国数英全てで85%以上の肯定的回答維持 R1:(数81.5、英90.0、国87.5) イ、教職員の目標設定時に確認し、年度末に達成状況を申告する。また、学校教育自己診断アンケートの「わかりやすい」肯定回答70%(R1:66%)に向上させる。</p> <p>(2) ア、1・2年生ともに結果向上 ABゾーン春秋10人増加 Dゾーン人数を減少させる R1:(1年13、2年43) イ、大学進学者数前年度比10%増をめざす。(R1:30%)</p> <p>(3) ア、就職内定率100%を達成(R1:100%) イ、漢字検定・英語検定・情報処理検定等の受験者を10%増やす。</p> <p>(4) ア、カリキュラムとシラバスを完成させ、各教科で次年度の確授業に反映させる確認をする。</p>	
<p>2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成</p>	<p>(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。</p> <p>(2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを育み、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。</p> <p>(3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす</p> <p>(4)生徒会行事や学年行事、部活動を活性化し、学校への帰属意識を高め、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。</p> <p>(5)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。また、外部機関と連携し、支援方法を向上させる。</p>	<p>(1) ア、遅刻数を減らす。 イ、皆勤者数の増加 ウ、スマートフォン等の適切な使用のための取組みを徹底する。</p> <p>(2) ア、守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。 イ、HR等を有効活用し、正しい人権感覚を磨き、社会で通用する規範意識を身につけさせる。</p> <p>(3) ア、1年生からの進路プログラムを更に充実させる。学校教育自己診断アンケートの「進路指導について」肯定回答を増やす。</p> <p>(4) イ、ポर्टフォリオの更なる活用と、キャリア・パスポートの様式を決定し、学期に一度担任と面談を通して、自らの適性を知り、進路決定に活かす。</p> <p>(4) ア、始業式や終業式の機会では表彰を行い、各活動における功績を紹介し、活動に誇りを持たせる。</p> <p>(5) イ、部活動参加率の増加のため、顧問体制の充実とあらゆる場面を通して加入を呼びかけ、校内ディスプレイにより活動内容を紹介する。</p> <p>(5) ア、全教員による相談機能を強化するために支援教育、性についての研修を1回ずつ実施する。 イ、専門的な見地からのアドバイスを受ける、関係機関と連携しながら相談体制を受ける。</p>	<p>(1) ア、遅刻回数年間4500以下 イ、3学年で130人以上(R1:121人) ウ、アンケートの実施 「ルールを守れている」肯定的回答80%以上めざす。</p> <p>(2) ア、「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」の増加58%以上(R1:53.6%) イ、「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加75%以上(R1:74.5%)</p> <p>(3) ア、学校教育自己診断 進路指導関係について肯定80%以上をめざす。</p> <p>イ、キャリアパスポートの完成</p> <p>(4) ア、学校教育自己診断アンケート 「本校志望理由、行事や部活」20%以上をめざす。 イ、部活動加入率45%以上に伸ばす(R1:40%)</p> <p>(5) ア、外部講師による教職員研修を2回実施し、アンケートにより成果を確認する。</p> <p>イ、スクールカウンセラーは前年度同様各回5人程度、スクールソーシャルワーカーは6時間2回を有効活用する。</p>	

<p>3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ</p>	<p>(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。</p> <p>(2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。</p> <p>(3)災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、一人の死者も出さない万全の防災体制を再構築する。</p> <p>(4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる。</p> <p>(5) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。</p>	<p>(1) ア、地元中学校との授業見学等の連携や支援学校との交流を進める。 イ、大学からの出前授業等や子ども園との連携を更に進める。</p> <p>(2) ア、出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ、入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。</p> <p>(3) ア、守口市の危機管理室と連携し、マニュアルを再点検し教職員に対応を周知する。 イ、メルマガを利用した安否確認体制を導入し、有事の際にも迅速に安否確認ができるようにする。</p> <p>(4) ア、ホームページのタイムリーな更新 イ、校門横電光掲示板に、タイムリーに発信する</p> <p>(5) ア、時間外勤務を減少させるため、校務を精査し、業務量を削減する。 イ、一斉退勤日やノークラブデーの更なる徹底を図る。</p>	<p>(1) ア、地元中学校へ出前授業 3校 支援学校との連携維持 イ、大学出前授業参加者 (R1:15人)を10%増加する。</p> <p>(2) ア、1年生による母校訪問 全校 イ、入学前中学校訪問数 全校</p> <p>(3) ア、通常の防災訓練に加え、教職員のみでのマニュアル確認を行う。 イ、教職員・生徒登録100%をめざし、発信訓練を一度行う。</p> <p>(4) ア、学校教育自己診断アンケートの「HPや携帯メルマガで「学校の様子がよくわかる」に対する肯定的回答67%以上をめざす。</p> <p>(5) ア、運営委員会のペーパーレス化とメール等を活用し、職員会議を勤務時間内に終了することをめざす。 イ、部活動実施計画を確認、適切な活動内容であることを確認する。</p>	
--	--	---	--	--